





### 4. 連載コーナー

第10回のお題は、こちら！

あなたの目線であなたの住む地域の  
**EV車普及事情を教えてください！**



住まいの地域事情を語り合うコーナー

トコロ変われば  
**ザ★談会**

#### 普及状況は？

燃油の高騰とタイ政府のEV車購入に対する補助金政策が追い風となり、街でEV車を目にする機会が増えました。タイ政府がタイをEV生産のハブにするに意気込む中、BYD、GWM、NETA等多くの中国メーカーがタイ現地生産に向けて動き出しています。米系TESLAも富裕層を中心に人気です。昨年末のモーターショーではトヨタが何とか首位を保ったものの、中国車EVのBYDが2位のホンダと大差なく3位にランクイン。既に月の新車登録数ではEV車が10%以上を占めるようになってたか？



昨年9月より香港在住です。MTR、トラム、バス、船と公共交通が充実しており庶民は自家用車がなくてもまったく不便はありません。香港の人は私が8月まで滞在していた中国本土と比べると、まだまだエンジン音を愛する人が多いような気がします。でも、やはりTeslaとかBYDなんかよく見かけます。



チェコでは、2023年9月時点で販売された新車のうち電気自動車はわずか2.69%で、約40台に1台となっているようです。これはEU内普及率最後から2番目となっております。道を歩いても電気自動車を見かけるとおっ！と目を引くくらい普及率は低いです。とにかく車の値段が高い！！実はそれに尽きるような気がします。あと田舎に行くと普通の小屋でさえ電気が通っていない場所もあるので電気に頼ると嫌な目に合わない、俺らはガソリン、ディーゼルで行くぞ！という風潮です。

#### 街中のEV整備は？

ガソリンスタンドや大型商業施設の駐車場には充電設備が増えてきました。EV購入者は、自宅に充電スタンドを設置していることも多いようです。個人的には、渋滞の酷いバンコクでエネルギー不足となり立ち往生するのは怖いなと思い、イマイチ興味が湧きません。バッテリーの耐久時間と充電時間の短縮が今後の課題かと思えます。



ちょっと郊外の町を訪ねたときに充電スタンドを見たことがあります。住んでいるあたりは高層ビル街なので駐車場もビルの中にあることが多く、地上を歩いていても実感がよくわかりません。政策的には公共駐車場での無料充電サービスが進められているとのこと。香港は狭いので出先で電池切れとか減多ないのでしょね。



最近ではマクドナルドや大型スーパーの駐車場で数台の電源ステーションが見られるようになりましたがまだまだ普及率は低いです。こうやって時々設置されてありますが、ほとんどフルで活用されている場面が少ないです。無料なはずなのに☹️



#### 話題や今後の展望は？

中国勢EVショールームの急増が物語っている通り、世間の流れはEVへ。しかしながら一方で修理やアフターケアなどの面を不安視する半信半疑な層ももちろんいるわけで。ただ、今のところはそれほど値段が変わらないHEV日本車を選択するとしても、今後その不安が一扫され、バッテリーの品質とEV整備がより向上すれば、地方も含めてEVがより普及し始めると思います。新しいもの好きのタイ人ですから、まずは一台買ってみようという人は今後も増えてくるのでは？



昨年から完全EVの2階建てバスが一部登場しているようです。またこの3月からBYDのEVタクシー200台が運行を始めたというニュースがありました。北京などと比べるとようやくかという感じですが、2027年までに3,000台導入とのこと。これまで香港タクシーで圧倒的シェアを誇っていたトヨタのクラウンが減っていくのかなあ。



電気自動車に抵抗があるその理由としてよく挙げられるのは、チェコの給与が西ヨーロッパほど高くないため価格が高いこと、BEVの種類が少なく充電インフラが不足しているため、長距離の移動に使用することが難しいことが挙げられます。去年大雪の際に多くの電気自動車が高速道路で立ち往生したドイツのニュースなど自然災害に非常に弱いことを目の当たりにすると電気自動車を所持する利点がありません。チェコに電気自動車が普及するのはまだまだ先だと思われれます。

電気自動車普及応援事業として電気自動車保持者はプラハ市内の有料駐車場が無料だったのですが今年10月でこの政策も打ち切りが決まりました。政府は新しく魅力の政策を打ち出さねばチェコの電気自動車普及は世界の普及率と反して減速を辿るような気がします。。。

### タイの昨今 ~第17回~



~変わるもの変わらないもの~

昨年末、バンコクから500キロ北に位置する「ブーグラドゥン国立公園」にて2泊3日のキャンプを楽しんできました。27年ぶりの訪問です。このブーグラドゥン国立公園、特に古い世代では「一生に一度は登りたい山」としてタイでは有名どころ。標高1,288メートルとそれ程高くない山なのになぜ人気不衰なのかというと、やはり登山を気軽に楽しめる環境が整備されていることかと。荷物はポーターの方々が生徒まで運んでくれるし、4-5時間かけて登り切る道中には休憩ポイントがあり食事や飲み物を提供してくれる売店が完備。頂上に着けば、テントや寝袋などの貸し出し、売店の数々が私たちを迎えてくれ、切り株のような形をした山頂では、入域範囲制限があるものの、鹿や象などの野生動物が息する環境の中でハイキングが楽しめる。このように管理された中で登山かつキャンプができる国立公園はタイ国内で他にはないのでは？

このような登山環境は少なくとも以前私が登った時と基本変わりものの、今回は現代には欠かせないネット環境がしっかりと整備されておりました！頂上でもwifiが問題なくつながり、スマホも売店で自由にできるという充実ぶり。こんな便利な環境じゃキャンプの醍醐味も半減するじゃん！と不満に思う一方で、やはりその便利さをありがたく思う自分もいるわけで。

そんなますます便利になったブーグラドゥンに、最近新たな計画が、ロープウェイの建設です。「一生に一度は登りたい山」に自力で登りたくても登れない方には朗報である一方で、ロープウェイができてしまったら、登山客が減りポーターや山道で生計を立てている売店関係者にとっては死活問題になることから賛否両論。ただ、年々ポーターになる若者も減ってきているというし、ロープウェイができたら

ポーターいらずで気軽に山頂に行け、ハイキングやキャンプが楽しめるというのは確かに魅力的。ロープウェイから見渡す山々の美しさはきっと登山だけでは味わえない魅力の一つともなるでしょう。

とはいえ自ら切り切った人にだけしか与えられないものもあるのです。それは、

**“一生に一度、我がブーグラドゥンの制覇者だ！”**

頂上に登り切った最初に目にするこの言葉。時代が変わってもここには変わらない称賛の証が。便利な世の中になっても、ブーグラドゥンはまだまだ私たちを魅了し続けることでしょう。(大畑)



アジア取材雑記  
第13回



# インスタ映え!?

## 『“蚊との闘い”最前線』

多少の気候の変化はあるとはいえ、基本的には“常夏”の東南アジアにおりますと、毎日のように悩まされるものがあります。蚊です。実に憎たらしい表情をしたコイツ…単に睡眠を妨害されたり、吸血されて痒くなったりして悔しい、という以上に、いま人類にとっての脅威になっています。

WHO(世界保健機関)によると、デング熱、マラリア、そしてジカ熱といった蚊が媒介する感染症で、年間およそ70万人が命を落としています。さらに気候変動の影響で蚊の生息範囲は年々広がっており、デング熱の患者数は20年前の10倍以上に急増しています。

こうした中、インドネシアのバリ島で今、“デング熱撲滅”を掲げた新たなプロジェクトが始まっています。豪州に本部を置く「WMP(World Mosquito Program)\*」が、地元当局と協業し、デング熱を媒介しない“特殊な蚊”を自然界に

どンドン放ち、その総数を増やしていくというものです。カギを握るのは“ウォルバキア”というバクテリア。これを蚊の卵に注入すると、成虫の体内でデングウイルスが育たないことが判明しています。

およそ40年をかけて研究・実験を重ねられたこの手法は、すでに世界14カ国で採用されており、デング熱の発症数が急減したという結果が医学界で注目されています。デング熱にかからないなら安心…と思いたいところですが、取材中にかなり刺されてやっぱり痒く、蚊への憎き感情は変わりませんでした…。###

(\*WMPは国連機関みたいな名称ですが、モナシュ大学発の非営利企業。創始者は蚊の研究で世界的権威とされるスコット・オニール博士です。宜しければ私が取材・制作したこちらの番組をご覧ください)

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2105062/>

(谷澤壮一郎/インドネシア在住)

皆様こんにちは。TVディレクターの谷澤です。  
インドネシアを拠点に東南アジアでTV番組の企画制作をしております。



5歳の息子にカブトムシブーム到来！  
バンコクの昆虫ショップにカブトムシの幼虫を買いに行ったら、お店の人がすぐに「Kabutomushi chai mai?」(カブトムシでしょ?)と聞いてきました。カブトムシという言葉と、日本人の子供＝カブトムシが好きというイメージが定着しているようです。昆虫を追いかけるのは世界中で日本人の子どもだけ?という情報もあります。毎日毎日YouTubeでカブトムシの動画を見続ける息子、早くカブトムシのいる森に放ちたいです!

カブトムシ  
南国タイでも  
カブトムシ

柴田 友美子

タイ・バンコクにて  
二〇二四年一月

### 東南アジアへの想いを共に発信していく仲間（国際学部・院同窓生）を募集しています！

東南アジア域内在住同窓生・元留学生・東南アジア域外在住で東南アジアに関わりたい、関わっていききたい同窓生興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局兼ニュースレター編集係までご連絡ください。  
数多くの同窓生からの声をお待ちしています！

事務局：大畑 (miyukiohata@gmail.com)

- 現メンバー（16名）▶大畑美優紀 95・マリー/藤田研▶田邊知成 96・小池研▶ROMANOV(當眞) 里絵 96・佐々木(史)研▶栗林(泊) 祥子 96・梅木研▶平田勝博 97・友松研▶本間みずほ 97・田巻研▶原理恵 98・藤田研▶谷澤 壮一郎 02・石濱研▶大宮 勇樹 06・マリー研▶知念(高田) 知佳 00・田巻研▶諸頭(岩山) 晴奈 05・阪本研▶小沼 洋子 97・藤田研▶藤井満春 00・友松研▶佐々木哲夫 99・藤田/中村(祐)研▶駒形麻朋 17・田巻研▶柴田(佐々木) 友美子 06・重田研 (※数字は入学年度)